

「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」

幌延町において、堆積岩を対象とした深地層の科学的な研究（地層科学研究）および地層処分技術の信頼性向上や安全評価手法の高度化に向けた研究開発（地層処分研究開発）を進める幌延深地層研究計画について、8月2日、研究を実施する国立研究開発法人日本原子力研究開発機構核燃料・バックエンド研究開発部門幌延深地層研究センターから「令和2年度以降の幌延深地層研究計画（案）」について申し入れを受けました。



山口義文所長（左）から研究計画（案）の申し入れ書を受け取る野々村仁町長

1. 幌延深地層研究計画に係る経過

平成13年3月 幌延深地層研究計画開始

平成27年4月 原子力機構第3期中長期計画
「平成31年度末までに研究終了までの工程とその後の埋め戻しについて決定する。」

令和元年8月2日 北海道、幌延町に対し「令和2年度以降の幌延深地層研究計画（案）」の申し入れ

2. 令和2年度以降の幌延深地層研究計画（案）の概要

（1）必須の課題と研究成果に対する評価について

・平成27年度以降、次の3つの「必須の課題」に重点を置いた研究開発を進めています。

【必須の課題】

- ①実際の地質環境における人工バリアの適用性確認
- ②処分概念オプションの実証
- ③地殻変動に対する堆積岩の緩衝能力の検証

・平成30年度に研究開発の進捗状況などについて、外部有識者からなる「地層処分研究開発・評価委員会」から次のような評価を受けました。

【評価結果】

- ・全体として概ね適切に研究が遂行され、当期5カ年の目標を達成できたと評価。
- ・今後は、技術の確立が可能な水準に達するまで、人工バリア性能確認試験および処分概念オプションの実証に関する試験を継続するとともに、本地下研究施設を最先端の地層処分技術を実証するプラットフォーム（共通基盤）として国内外の関係者に広く活用されることを期待する。

お問い合わせ先：企画政策課 企画政策